



日光ケミカルズ株式会社

パーソナルケア・医薬品・化成原料の研究・処方開発、情報の提供や販売、開放研究室によるお客様サポート



日本サーファクタント工業株式会社

化粧品・医薬品・食品および一般工業などの原料製造



ベルジュラックジャパン株式会社

ネイルエナメル・ネイルケア製品などの化粧品の受託製造および購入



株式会社ニコダームリサーチ

化粧品・医薬品の原料および製剤の安全性・有用性評価の受託、最適な安全性・有用性評価法の提案



日光化学貿易（上海）有限公司

中国パーソナルケア市場への原料の輸入販売（界面活性剤、油性成分、活性成分、植物油、植物抽出物、表面処理粉体等）



日光ケミカルズ（シンガポール）Pte. Ltd.

界面活性剤およびエステル油の製造販売



NIKKO CHEMICALS (INDIA) PRIVATE LIMITED

化粧品、食品、医薬品等を中心とした化学原料の売買および研究・調達・製造・評価・コンサルティング・マーケティング



CSR Report 2025-2026



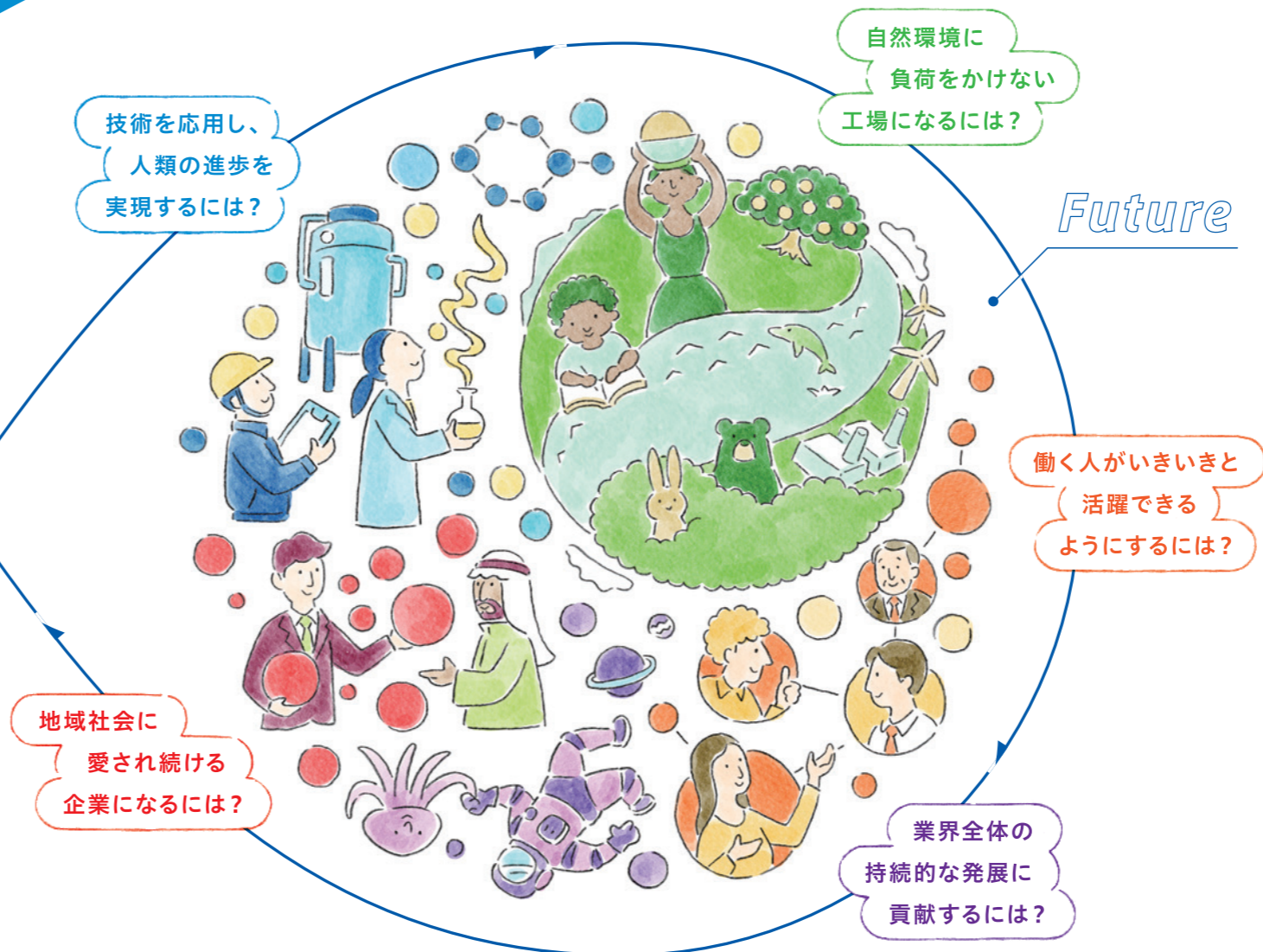
NIKKOL GROUPのCSR

ニッコールグループが提供する製品やサービスの源流を辿ると、創立者・関根正巳が目指した「真の責任」に行き着きます。70年以上に渡り受け継がれてきた想いは、2022年の合併によって、より強固なものとなりました。これからも「NIKKOL 25 for 2030」のスローガンのもと、各ステークホルダーの声を傾けながら、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

Response

“あらゆる社会生活の面で真の責任を感じ、それを実行する勇気をもとう。”

創立者 関根正巳『joint』昭和45年11月9日号



代表あいさつ

社会は大きな転換期を迎えています。テクノロジーの発達やライフスタイルの変化に伴い、消費者のニーズが多様化しています。こうした“正解”のない時代だからこそ、日常を支えるサプライヤーの社会的責任は重大です。

それはニッコールグループも例外ではありません。私たちは「CSR」や「サステナビリティ」という言葉が社会に浸透する以前から、活動に取り組んできました。

活動の領域は多岐に渡りますが、突き詰めた先には「人々の喜びや幸せ」があります。その想いは、創業者から社員へと受け継がれ、やがてグループ全体に波及していきました。4000品目を超える製品は、私たちが社会と真摯に向き合ってきた証でもあるのです。

ニッコールグループはこれからも、社是「創造性の涵養」のもと、新たな価値を提供し続けます。



日光ケミカルズ株式会社
代表取締役 社長執行役員
中原 秀之

美しさの化学を、社会を想う科学に。 NIKKOL 25 for 2030

NIKKOL GROUPが2030年までに実現したい25の夢
「コロイド化学と皮膚科学は、世界に新しい未来を創造する」より深く社会に貢献できる企業となるため25の夢を掲げ、その実現を目指していきます。

EARTH

「地球」の未来と共にあるために

1. 再生可能な資源だけを使用した原料を世界に届ける。
2. エネルギーや資源の新しいリサイクル技術を開発する。
3. 循環型社会へ向けた活動で社会から信頼される企業になる。
4. 地域産業の持続可能な発展のために公正な取引を行う。
5. 原料を届けるだけでなく、教育など地域社会に貢献する。

TECHNOLOGY

「技術」で社会をリードするために

6. NIKKOL GROUPでしか創れない界面活性剤で世界を変える。
7. スマートセルや合成生物学などを活用した次世代型製造技術を実現する。
8. メイドインジャパンの素材でNIKKOL GROUPブランドを構築する。
9. イノベティブな新製品開発力で、世界から選ばれる企業になる。
10. コロイド研究領域のナレッジを通して、社会の進歩に貢献する。

BUSINESS

「事業」の新しい未来を切り拓くために

11. 多様化するこれからの「美しさ」の価値観にもっと応えていく。
12. パーソナルケアを超えて、ヘルスケア領域でも新しい価値を創造する。
13. 原料販売だけでなく、ソリューション、トレーディング領域に進出する。
14. 文化遺産保護や宇宙開発など、未知の領域で社会に貢献する。
15. 事業の拡大と発信を通して、新しいNIKKOL GROUPファンを作っていく。

TEAM

「社員」と共に未来を描いていくために

16. テクノロジーが進んでも、常に人間中心の企業であり続ける。
17. 企業が描く将来像と社員が抱く夢を重ね合わせながら未来を切り開く。
18. 社員が求める真のやりがいに耳を傾け応えていく企業になる。
19. 会社の枠を超えて価値観に共感した仲間が集い創発できる場所になる。
20. 性別や国籍を超えて、誰もが自由な働き方を選び活躍できる環境をつくる。

SOCIETY

「世界」のNIKKOL GROUPであるために

21. 世界の隅々に製品を届けるためのネットワークを構築する。
22. アジア地域で皮膚科学とコロイド化学ならNIKKOL GROUPと言われる。
23. その国のニーズ・商習慣・社会の多様性に寄り添った事業を実現する。
24. 世界の企業と確かな信頼で結ばれるパートナー企業になる。
25. NIKKOL GROUPと共にある世界の全ての人たちと成長を分かち合う。

NIKKOL GROUPのCSR

ニッコールグループ各社では、これまで大小合わせて150を超える様々なCSR活動を実施してきました。取り組みの根底にあるのは、社会の一員として果たすべきコミットメント（約束）です。「NIKKOL 25 for 2030」で掲げた「25の夢」が推進力となり、社は「創造性の涵養」に結実します。



社是 創造性の涵養

創立以来育まれた
社会に貢献する
NIKKOL GROUPのDNA

Vision NIKKOL 25 for 2030

「創造性の涵養」を
今の時代において実現すべく
全社員で描き出した25の夢

コミットメント

企業統治 内部監査 情報開示 説明責任 リスクマネジメント 企業価値の分配

NIKKOL GROUPが社会的な存在として世界中の人々に貢献するために果たすべき「約束」

CSR推進体制

ニッコールグループでは、2022年1月にグループ各社の代表者で構成される「サステナビリティ委員会」を発足しました。

それぞれが持ち寄り共有した情報や活動を、自社に持ち帰って横展開する、あるいは社外へ発信できる環境をつくることで、新たなCSR活動が生まれる基盤を構築しています。



BCP（事業継続計画）

ニッコールグループでは、BCPを強化・向上させるべく継続的に検討・改善を行い、グループ内の製造会社と販売会社が協力して対応しています。

日光ケミカルズ

グループ全体の製造・販売・情報セキュリティのBCPを担っています。例えば、購買本部は、素材原料の探索や評価を進め、製品調達の安定性を確保。SCM本部は、物流面での安定供給を支えています。また、IT企画推進室はクライシス発生時に備え、情報セキュリティ対策を管理しています。

日本サーファクタント工業

製造設備の耐震強化をはじめとする安全対策を行うほか、外部の製造委託先とも連携して、製品の安定的な製造・販売の確保に努めています。また、在庫を安定的に確保するために、製品や原料の拠点を複数展開。さらに、各事業者との関係も強化し、緊急時の相互供給体制を築いています。

ベルジュラックジャパン

主力事業となるネイルエナメル・ネイルケア製品などの製造工程を分散化するほか、予備的製造拠点も整備。緊急時における供給への影響を最小限にとどめます。

ニコダームリサーチ

緊急時においても、化粧品・医薬品・医薬部外品・食品などを評価検討できるように、日光ケミカルズと協力して国内外の研究機関と提携しています。

日光化学貿易（上海）

中国市場で化粧品ビジネスを展開する事業者への供給拠点として、日光ケミカルズや各原料メーカーから調達した製品の安定在庫を確保しています。

日光ケミカルズ（シンガポール）

複数の製造委託先を確保し、非常時の製造体制を設けています。さらに、一部の重要な製品については、日本サーファクタント工業と相互補完できる体制を築いています。

SDGs 持続可能な社会の実現への貢献

ニッコールグループでは持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献すべく、事業活動を通じ9つの重要課題への取り組みを推進していきます。



環境

ニッコールグループは、地球の環境保護が人類共通の課題であることを認識し、環境負荷の少ないモノづくりに努めています。製造プロセスの改善や第三者機関による評価なども積極的に実施し、省エネルギー化に取り組むほか、事業を通じて発生する資源問題に関しても、廃棄物の低減や再利用など資源の有効活用を行い、スペシャルティカンパニーとして、グループ全体で環境マネジメントの構築を推進しています。



環境負荷低減への取り組み



CO₂排出削減目標および排出量モニタリング

2016年にパリ協定が発効され、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をするという目標が掲げられています。日本でも2030年度に温室効果ガス排出量46%減(2013年度比)を表明し、プライム上場企業では排出量開示の義務付けが検討されるなど、国を挙げての対応が求められています。ニッコールグループでは2025年度までに製造部門で30%、その他部門で15-25%(2019年度比)のCO₂排出量削減目標を掲げ、毎月グループ各社におけるCO₂排出量のモニタリングを行い、削減活動を推進しています。2024年1~12月累計で2,968t - CO₂削減を達成(2019年度比37%減)。



ニッコールグループ全体

国内3工場の電力CO₂排出量ゼロへ



日本サーファクタント工業 宇都宮事業所と那須事業所、ベルジュラックジャポン那須工場では、2023年10月にCO₂フリー電力への切替えを行い、電力由来によるCO₂排出量をゼロといたしました。これにより、年間約2,752トン(2019年比)のCO₂削減につながっています。さらに2025年4月からは、東京電力エナジーパートナー株式会社が提供する「とちぎふるさと電気」を導入しました。「とちぎふるさと電気」は、栃木県内の再生可能エネルギーを活用することで、環境負荷低減とともに地域の発電事業支援や経済活性化にも貢献できるプランです。当社は、再生可能エネルギーの活用を通じて脱炭素社会の実現を目指すとともに、地域社会と共に持続可能な成長を進めてまいります。



日本サーファクタント工業 宇都宮事業所



日本サーファクタント工業 那須事業所



ベルジュラックジャポン那須工場

省エネルギー化

日本サーファクタント工業では、工場内に導入する装置は、環境負荷の少ない省エネタイプ電動機へ変更し、更にインバータ制御を積極的に推進しています。また、照明設備は蛍光灯からLEDへの切り替えを進めています。インバータ制御の一例として、24時間連続運転で電力を多く消費していた排水処理場のブローアがあります。排水処理場に溶存酸素量計を設置し、その溶存酸素量値に対し、ブローアをインバータ制御することで、必要とする酸素量に応じてブローア出力を調整でき、無駄な電力消費を抑えるなどの省エネルギー化を進めております。



溶存酸素量

エコアクション21



エコアクション21
認証番号0008695

「エコアクション21」は、環境省が策定した日本独自の環境マネジメントシステムです。導入する企業には、生産・販売・提供する製品の環境性能の向上およびサービスの改善などが規定されています。その成果を毎年、環境経営レポートとして作成・公表します。日本サーファクタント工業では2012年から定期的に取得。2021年8月には、エコアクション21中央事務局より「認証永年継続事業者」に認められました。

太陽光発電

日本サーファクタント工業では、事業所における環境負荷低減のため、太陽光発電システムを導入しています。宇都宮事業所では、年間29,574kWh(2024年度実績)の発電を行い、購入電力量の約0.53%をまかなっています。また、那須事業所では2024年に太陽光発電設備を増設し、さらに最大600kWhの発電能力を確保しました。その結果、那須事業所・ベルジュラックジャポン那須工場を含めた年間発電量は670,485kWh(2024年度実績)に達し、購入電力量の約29.8%をまかなうことができています。今後も、再生可能エネルギーの活用を継続的に推進していきます。



環境負荷低減への取り組み

エネルギーの効率利用 ガスコージェネレーション

日本サーファクタント工業 宇都宮事業所では、「ガスコージェネレーション」を設置しています。コージェネレーションで発電された電力を工場内プロセスに活用するとともに、熱については蒸気ボイラー補給水の加熱に活用しています。コージェネレーションシステムの活用により、15.1% (従来方式比) の省エネルギー率を達成。原油換算で11.3kL/年、CO₂排出量として約30t/年の削減に成功しています。(導入: 2015年)



とちぎゼロカーボン企業



ニュートラくん©栃木県

海外工場での環境負荷低減

日光ケミカルズ (シンガポール) では、24時間稼働させていたクーリングタワーを最適な稼働時間に設定することで、運用の最適化に取り組み、電気使用量を540,000kWh (43%)、水使用量を18,000m³ (73%)、CO₂排出量を250t (45%) 年間で削減しました。



日本サーファクタント工業は、工場のある栃木県においてカーボンニュートラル実現化への取り組みを行っています。2024年度には、特に優れた取り組みを行っている中小企業を表彰する「とちぎゼロカーボン企業」に認定されました。

ZEB Ready (建物の省エネ化)

「ZEB」(Net Zero Energy Building) とは、快適な室内環境と省エネルギーの両立を目指す建物を対象とする認証制度です。2022年に建て替えた日光ケミカルズ R&Dセンターと2025年に新設した日本サーファクタント工業 那須事業所の新事務棟において、BELS (建築物省エネ評価制度) による外部評価で「ZEB Ready」認証を取得、従来の必要エネルギーの50%以下にまで削減しています。



日光ケミカルズ R&Dセンター



日本サーファクタント工業 那須事業所 新事務棟



環境に配慮したモノづくり

日光ケミカルズでは、生物学を応用し「環境に配慮したモノづくり」に長年取り組んでいます。微生物を用いた発酵技術やオリジナル酵素の開発、酵素反応技術などを応用してバイオ基盤技術を構築しています。また、2022年8月から『MATSURI』イニシアチブ*にシルバートナーとして参画しています。本プロジェクトでは、多種多様な業界から様々な企業と行政が連携しながら藻類を用いたサステナブルな製品開発を進めています。

* バイオエコノミーを推進する産業横断型イニシアチブ



資源の有効活用

NIKKOL ECO ACTION

日光ケミカルズでは、2023年より持続可能な社会の実現に寄与するため「NIKKOL ECO-Friendly Policy (ニッコール エコフレンドリー ポリシー)」を策定し、産業廃棄物の削減を目的に、製品の包装や容器損傷が軽度のもの、且つ従来の品質基準に合致するものを対象に、出荷・販売する、「NIKKOL ECO ACTION (ニッコール エコアクション)」を実施しています。



水の再利用および排水処理

日本サーファクタント工業 宇都宮事業所では、施設内で行われている一部の工程において、再利用水装置を導入しています。また、排水処理プロセスに「1,4-ジオキサン除去装置」を導入することで、基準値をクリアし環境負荷低減を進めています。導入した装置は、工場排水のレベルで処理ができるものとして民間では国内初であり、複搭シリーズ方式も国内初です (実験機を除く)。水の再利用や施設から出る排水を削減することによって、環境保護に努めます。



環境配慮型の資材の活用

サンプル容器・パレット・緩衝材・結束バンド・ SHIPPING マーク

製造プロセスだけでなく、事業活動で用いる各種資材も環境に配慮した素材を積極的に利用しています。2023年から日光ケミカルズでは、これまで廃棄されていた中間体樹脂を用いた製剤サンプル容器を一部活用して展示会やお客様への販



促活動を行っています。また、輸出入荷時の SHIPPING マークにはパーム油を搾った後に焼却廃棄される搾りカスを再利用した用紙を使用しています。日本サーファクタント工業では、2023年より新たに海洋への環境負荷低減にも目を向け、流出リスクの高いプラスチックごみを再利用したOBP (オーシャンバウンドプラスチック) パレットを導入しています。さらに、製品やサンプルを輸送する際に用いる緩衝材や結束バンドは生分解性が高いものを使用しています。

雨水の再利用

ベルジュラックジャポンでは地下雨水貯水槽に溜めた雨水をトイレの洗浄水に活用しています。雨水は工場の屋根から雨樋を伝い貯水槽に溜め、雨水処理ろ過システムを通し不純物を取り除き洗浄水として使えるようにしています。ベルジュラックジャポンの第1工場・第2工場にある全てのトイレの洗浄に、この雨水を利用することで水道水などの使用量の削減に貢献しています。



持続可能な資材調達

現在、企業は社会全体からサプライチェーンにおける持続可能性が求められています。ニッコールグループでは、こうした要求が求められる前から、グローバルにスペシャルティケミカルを提供する企業として持続可能な資材調達への取り組みは企業の義務と考え、積極的に取り組んでいます。

独自の調達方針

購買ポリシー

ニッコールグループでは、取引先企業様の協力体制のもと、購買活動において持続・追跡可能な原料・資材調達を目指しています。そこで持続可能な事業体制の実現のために、「購買ポリシー」を策定し公開しています。取引先企業様には法令・規制遵守をお願いするとともに、国内および海外全ての取引先企業様に公平に引き合い、適切な品質・価格・納品の条件を定め、管理体制や企業の社会的責任を重視したサプライチェーン構築を目指しています。

- 1 法令遵守
- 2 規制対応と認証取得および環境問題への取り組み
- 3 最高基準の品質
- 4 グローバル市場における競争を可能にする適正価格の設定
- 5 安定供給と適正梱包
- 6 各種変更発生時の依頼
- 7 技術
- 8 売買取引基本条件 (契約締結)

購買ポリシーの詳細はこちら



NDPEポリシー



日光ケミカルズでは2023年12月に「NDPEポリシー」(森林伐採、泥炭採掘、人権侵害を排除する方針)を策定、公開しています。森林伐採を排除し、人権を尊重し、地域コミュニティを支援することで持続可能なパーム油関連製品の調達に取り組み、サプライチェーンの構築と維持に努めています。このポリシーに基づき、ステークホルダーと緊密に連携し、森林、泥炭地、人権、地域社会の保護に関連する規制や法律を遵守するための取り組みを行っています。また、パーム誘導体のダウンストリームユーザーとして、サプライチェーン全体におけるNDPEポリシーの普及を目指します。

サステナビリティ方針

NIKKOL ECO-Friendly Policyおよび製品定義



ニッコールグループは、サステナビリティを経営の重要課題と捉え、2022年に最上位方針として「NIKKOL ECO-Friendly Policy」を策定しました。本方針は、環境負荷の低減に加え、社会的・経済的観点からも持続可能な事業活動を目指すもので、「Ethical」「Climate」「Origin」のテーマで構成されています。本方針に基づき、環境・社会へ貢献する製品を「ECO-Friendly製品」と定義し、その普及に努めています。RSPO認証対応やパームフリーなどを最低条件とし、さらに「Ethical」「Climate」「Origin」のテーマで、トレーサビリティや高い生分解性、環境負荷の少ない製法など、付加価値を持つ製品を分類し、お客様にご提案しています。ニッコールグループは、この方針を通じてサプライヤーやステークホルダーの皆様とともに、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

- Ethical (倫理的な企業活動)**: 倫理的かつ持続可能な社会を意識し、責任ある原材料調達と社会の多様性に寄り添った公正な事業の実現を目指します。
- Climate (気候変動に対する対策)**: 地球温暖化防止と気候変動対策への貢献を目指し、CO₂や廃棄物削減に努めるとともに、環境に関する法規制を遵守します。
- Origin (持続可能なリソースの活用)**: 循環型社会の実現を目指し、バイオテクノロジーや再生可能原料の活用による技術や製品の開発に取り組みます。

NIKKOL ECO-Friendly Policy
および製品定義の詳細はこちら



グローバル認証

RSPO認証



「RSPO」は、パーム油の持続的な産業化を目的としている国際的な非営利組織です。持続可能な供給体制の維持や生物多様性の保全を目指すニッコールグループでは「RSPOサプライチェーン認証」を取得しています。「RSPO」の正会員として加盟したグループ各社のうち、日本サーファクタント工業と日光ケミカルズ(シンガポール)がRSPOマスマバランス(MB)製品の製造認証工場に認められました。さらに、2024年ニッコールグループの購入原料や製品のパーム誘導体について、MB認証品の割合97.97%を達成しました。



EFfCI GMP認証



日本サーファクタント工業 宇都宮事業所は、2013年2月、日本で初めてヨーロッパの化粧品原料基準である「EFfCI GMP」を取得しました。これにより「ISO 9001」ではカバーしきれない衛生管理の項目が強化され、化粧品原料の製造に特化した品質管理が可能となっています。同年12月には「EFfCI GMP」と「ISO 9001:2008」の維持審査に適合しました。2025年2月には那須事業所も認証を取得しました。これにより日本サーファクタント工業の全ての事業所がEFfCI-GMPの認証を取得しました。

国内許認可

食品添加物製造業許可

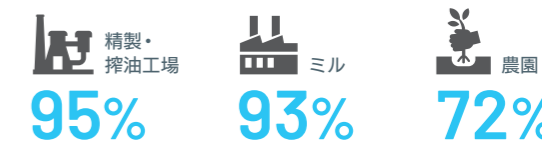


食品添加物製造業許可は、食品添加物を製造するために必要な許認可です。日本サーファクタント工業 宇都宮事業所では行政手続きに従い、食品添加物製造業の許可を取得しております。

ASDへの参画



「ASD」(Action for Sustainable Derivatives)とは、パーソナルケア業界におけるパーム・大豆油誘導体のユーザー企業からなる団体です。産地(農園やファーム)、搾油工場、誘導体製造会社、化粧品メーカーに至るまでのサプライチェーン全体の厳密な管理を行うことで透明性を高め、森林伐採など環境問題や労働環境など人権問題を防ぐ役割を担っています。日光ケミカルズは、国内初となるASD会員企業に参画しました。2025年2月時点で、ニッコールグループが取り扱っているパーム油誘導体・パーム油由来製品のトレーサビリティは、精製・搾油工場までは「95%」、ミルまでは「93%」、農園までは「72%」という高い透明性を確保しています。



EcoVadis



「EcoVadis」は、独立評価機関のEcoVadis社が提供している企業のサステナビリティ評価システムです。「ISO26000」などの主要な基準に基づいており、「環境」「労働と人権」「倫理」「持続可能な資材調達」の観点から企業のCSR活動を評価します。2025年10月に「Committed (コミットメント)*」のバッジを授与されました。

*EcoVadisの評価手法で「確立」のパフォーマンスを表すスコア要件に基づいた企業に授与される。

医薬品製造業許可



医薬品を製造するためには、医薬品製造業の許可が必要です。日本サーファクタント工業 宇都宮事業所では、高品質・安心・安全な医薬品を製造するために行政手続きに従い、医薬品製造業の許可を取得しております。

人権・倫理

ニッコールグループでは、次世代を見据えた「組織風土」「企業文化」の醸成、新しい働き方の実現に取り組んでいます。ワークライフバランスの充実、リモートワーク環境の整備、男性従業員の育児休業推進、人材の多様化（多国籍人材）はもとより、「NIKKOL 25 for 2030」で標ぼうする「真のやりがい」を支援する取り組み、コンプライアンス強化などの浸透・定着に努めています。



人材に対する取り組み

多様性の尊重

安全で健康的な労働環境

ステークホルダーとの対話

人権方針の全文はこちら

人権の尊重

近年、国内外において人権への意識が高まり、企業の事業活動における人権尊重の取り組みが重要となっています。日光ケミカルズにおいては、人権尊重への取り組みをより一層推進するため、「日光ケミカルズ株式会社 人権方針」を策定し、公表しています。

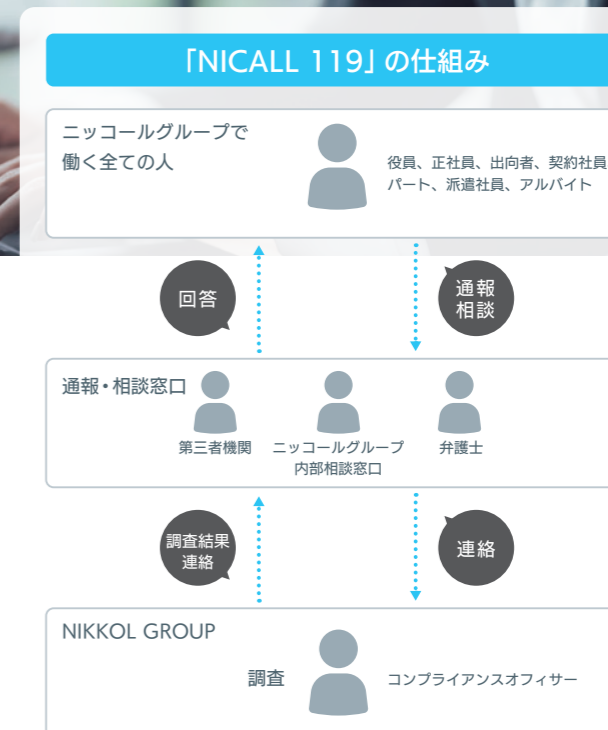
本方針のコミットメントは、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に沿って、世界人権宣言、市民のおよび政治的権利に関する国際規約、ならびに経済的、社会的および文化的権利に関する国際規約からなる、国際人権章典、および国際労働機関の「労働における基本的原則および権利に関する宣言」に定められた基本的権利に関する原則に基づき、また、国連子どもの権利条約および国連女性差別撤廃条約に要約されている、子どもおよび女性の権利にも言及しています。さらに、日光ケミカルズは、「OECD多国籍企業行動指針」および「子どもの権利とビジネス原則」を遵守しています。

日光ケミカルズは、事業を展開するあらゆる地域において、当該国の国内法を遵守し国際的に認められた人権を尊重します。両者が相反する場合には、当該国内法を遵守する一方、可能な限り国際的な人権を尊重する方法を模索します。また、差別、強制労働、人身売買、児童労働を禁止し、安全で健康的な労働環境と個人の尊厳の確保に努めるとともに、従業員との関係において、適切な情報提供と有効な話し合いができる環境の維持に努めています。



内部通報制度 NICALL 119

企業が健全に成長するためには、社内でのコンプライアンス違反やその疑いのある事象などを通報・相談できる窓口が不可欠です。ニッコールグループでは内部通報制度「NICALL 119」を設け、その基盤を固めています。制度の対象は、役員、正社員、契約社員、パートタイム労働者など、グループで業務に従事する全ての人材です。通報が事実と認められた場合、通報対象者は社規則に従って厳正な処分が下され、その結果は通報者にもフィードバックされます。



幅広い通報・相談に対応

「窓口は広く、敷居は低く」をモットーに通報・相談を受け付けています。法令違反、社内ルール違反などのホットラインだけではなく、悩み相談といったヘルプラインも重視しています。

3つの通報・相談窓口

社内の専門チームのほか、弁護士や第三者機関も相談に応じています。日・米・中の言語に対応しており、マルチリンガルなスタッフが通訳や三者間通話を担当します。

4つの通報・相談方法

第三者機関への通報・相談は4つの方法を用意しており、専用WEBフォーム、電話、電子メール、郵送に対応しています。通報・相談者の了承がない限り、氏名や所属は社内には報告されません。

1on1の運用

1on1（ワンオンワン）は、上司と部下による定期的な1対1の対話の仕組みです。ニッコールグループでは、2020年にグループ全体で導入し、活発に運用されています。業務打ち合わせや進捗確認、評価のための面談とは異なり、上司と部下の相互理解、部下の中長期の成長支援が目的。部下の気持ち・課題や悩みを共有し、励まし、支援します。1on1を通して上司と部下の関係性が向上すると共に、従業員の成長が促進されています。



働き方

多様な働き方とワークライフバランス

ニッコールグループでは、従業員それぞれのライフステージにおいて最も力が発揮できるワークスタイルを従業員自身が選択できるよう、多様な働き方を実現しています。日光ケミカルズでは、フレックスタイム制、裁量労働制を導入し、ワークライフバランスの向上とともに、従業員の自律性の醸成を図っています。また、リモートワーク/在宅勤務の導入による生産性の向上への取り組み、さらに、労働時間の適正化(残業時間の短縮)、有給休暇の取得を促進し、成果を出しています。多様な働き方の推進は、離職率の低減にも効果を示しています。



健康経営

従業員の健康の維持・向上を重要課題と捉え、ニッコールグループ全体で「健康経営」を標榜しています。健康診断や人間ドックの受診や再検査受診の推進、食生活に関する指導、適度な運動の励行、メンタルケア面談や健康に関する専門家のレクチャーの実施、計測機器(血圧計など)を各社に設置するなど、従業員の身体と心の健康を意識した取り組みとなっています。



女性活躍

日光ケミカルズでは、女性管理職が占める割合が全体の25%となっています。ニコダームリサーチは20%、日光ケミカルズ(シンガポール)は33%に達しています。そのほか、日光ケミカルズ・日本サーファクタント工業では、次世代育成支援対策推進法・女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を策定。グループ全体で女性活躍のためのプロジェクトを立ち上げ、性別に囚われない人材登用により、多様性のある企業運営を目指しています。



男性育休推進

ニッコールグループでは、女性従業員はもとより、男性従業員の育児休業取得を推進するプロジェクトを進めています。育休取得を促す情報発信やパンフレットの配布などの啓もう活動の結果、2021年以降、男性育休者は年ごとに増加し、2024年度~2025年度には8名が取得しました。営業・研究・事務部門はもとより、製造部門でも取得可能な文化と環境が整ってきています。



多国籍の従業員が集う場

ニッコールグループでは、多様な価値観が集う場所となることを目指し、外国籍従業員の採用を推進し、受け入れ環境を整備するプロジェクトをグループ全体で展開しています。従業員の国籍数は年々伸びており、2025年10月現在では、日本、中国、アメリカ、インド、ベトナムなど、14国籍の従業員が活躍しています。



セルフビズ

セルフビズとは、社員の柔軟性を引き出すため、年間を通して各社員の判断で服装を自由に選んで勤務する、自己管理主体のアクションを喚起する取り組みです。日光ケミカルズでは、2021年よりセルフビズを導入し、通年での省エネの取り組みであることはもちろん、従業員同士のコミュニケーション活性化、柔軟かつ新たなアイデアの創出、就業意欲・業務効率を高めることを目指しています。



倫理・社会貢献

情報セキュリティ基本方針

ニッコールグループでは、全ての情報資産を適切に活用・保存し、安全かつ適正に管理することで、企業経営の向上と信頼の確保に努めています。私たちは、高度で均質な情報セキュリティマネジメントを実現するため、基本方針に基づき、継続的に情報セキュリティに取り組んでいます。



夏休み親子イベント

日光ケミカルズでは、主力製品である界面活性剤をより身近に感じてもらうことを目的とし、小学生を対象に夏休み親子イベントを実施しています。実験やクイズ、クリーム作り体験を通して、界面活性剤の魅力を楽しく学べる機会を提供しています。



事業と連動した国際貢献：JILAFを通じたラオスコーヒー農家への苗木寄付

日光ケミカルズが販売する「NIKKOL Cafeシリーズ」は、抽出後のコーヒー粉(コーヒーグラウンズ)をアップサイクルした化粧品原料です。2024年度のNIKKOL Cafeシリーズの売上げの一部から、公益財団法人国際労働財団(JILAF)を通じて、ラオスチャンパサック県イトゥー村のコーヒー栽培に取り組み方々にコーヒー苗5,000本分の寄付を行いました。種子から苗木を育て、2025年6月には現地農場での植樹が行われました。日光ケミカルズは、ラオスのコーヒー産業の発展における活動支援を継続してまいります。

